

慈光

発行：平成19年9月10日
浄土真宗本願寺派 徳勝寺
さめぎ市寒川町石田東甲618
電話 0879 (43) 2023

6月の末から立て続けに多くのご門徒さんがお亡くなりになりました。一人おひとり懐かしい方ばかりです。

とりわけ永らく総代としてご苦勞をおかけした3人の方には、忘れられない思い出があります。

志度末の廣瀬忠さんは、祥月命日のたびに美味しい料理を作ってくれて、ご親戚の皆さんとも楽しくお話をなさっておられました。

故人となったお隣の中村徳三郎さんと一緒にお話をしているときの楽しそうなお姿は、今も忘れられません。



津田北山の山中亀雄さんは、先々住のお話をいつもされておりました。子どものころに先々住がお酒を呑むのに付きあわされて、いろんな話をしたことを思い出しながら、嬉しそうに教えてくれました。

眼がお悪くなるまでは、仕事が終わったらお寺の手伝いに行くから、とってくださっておられたのに、ついにそれもできずじまいでした。



長尾昭和の西木静夫さんは、監査もして下さっていました。壮年会にも入って、みんなと一緒に楽しくお酒を飲んでおられました。

いくら飲んで酔った姿を見ることのない酒豪でした。しかも、いくら酔っても他人の悪口を言うことなく、どんなに周りが荒れていても独り冷静にことを納めてくれる方でした。



多くの方がいなくなって、私たちはさびしい思いをしますが、きっとお浄土では楽しく我々の思い出話をしておられるでしょう。待っていてくれる人のいるお浄土に、いつの日か私たちもお浄土に参らせていただいて、懐かしい人たちに逢わせていただきましょう。

HP: <http://www.daigo.or.jp/>

秋季永代経 組習堂彼岸会

仏教壮年会 9月22日午後6時から 会館だいで

9月

23日(日)

22日(土)

午後1時半読経

高松市川部町

御講師 田村正教先生

年に二回のお彼岸は太陽が真西に沈むことから、古よりお浄土が見えると言って、逝かれた人を偲んで、お寺やお墓にお参りするのが慣わしでした。

沈む夕日の向こうにあるお浄土に心をはせながら、みずからの行く末を真剣に考える大切な時間だったのでしよう。

今回は、以前にもお出でいただいた田村先生をお迎えして、易しいお話をしていただきます。お若い先生ですので、きっと若い方にも分かりやすいお話をしてくださると思います。ぜひとも、ご家族そろってお参りください。

お寺の仕事は、亡くなった方たちをお慰めするだけがお仕事ではありません。今生きておられる皆さまが、安らかに生きていかれますように様々な活動を続けております。

その一環が、門信徒会館だいで活動です。仏教婦人会・仏教壮年会や、お正信偈をお勉強する仏教講座などが毎月行われています。どなたでも参加できますので、ぜひご参加ください。

また、坊守がヒーリングの研修を毎週2日行っております。

現代人は、多くのストレスを抱えて生きております。少しでもその解消になれば幸いです。

1. 日時 毎週水曜・木曜 午後2～4時
2. 場所 保育園運動場北側建物2階
3. 参加費 500円/回



今回の修繕のいちばんの問題は、白ありに食われているのではないか、という心配でしたが、それは2カ所だけでした。

しかし、100年をこす年月で、大引や根太のほとんどが耐久力を失ってしまっており、畳もへたってしまっていました。

とくに大引などは、材木自体に腐りがでており、外見上は問題ないように見えたのですが、床自体が落ちる可能性もありました。



夏参りが終わった直後から、徳勝寺の座敷の大改修が行われました。およそ8月いっぱいかかる大改修でした。

まず、座敷にあるすべてのものを、壮年会の人たちによって撤去していただきました。写真のように、ふすまや障子はずすと、こんなに広がったんですね。

壮年会の皆さん、ありがとうございました。



工事は、まず大引から新調していきました。つかの数も約1.5倍入れ、根太の間隔も細かくいたしました。

根太が入った時点で、白あり予防を行って、その後、野地板を打っていきました。

もちろん、敷居の調整も行いました。おかげで、ふすまや障子がそのままでは入らず、大工さんに無理をお願いして、細かく調整してもらいました。

庫裏の大改修

約1ヶ月におよぶ改修期間中には、大変皆さまにはご迷惑をおかけいたしました。

今回の大改修では、庫裏の座敷部分の床部分をすべて新調して、大人数がお入りになっても大丈夫なようにいたしました。

庫裏の大座敷にお入りになる機会は少ないと思います。お葬式の後の七日参りなどには、大座敷でお接待をさせていただいておりましたので、ご記憶の方もありません。

何度か小さな改修はしてはりましたが、

昔の仕事ですので、半丸の根太などを使っており、床自体が傷んできておりました。また、鴨居や敷居も年月を経て弛んだり、ゆがんだりしておりましたので、それも調整いたしました。

何よりの廊下の傷み方が激しくて、本堂の工事の際に廊下だけ直そうとしたのですが、全面改装でないと難しいと言われて、今日まで延びのびになっていたものです。

これで、本堂も庫裏も十分に機能するように整備が終わりました。



すべての畳を新しくして、さらに建具が全部入った状態です。

今まで開け閉めに不自由していたふすまも、開け閉てできるようになりました。

廊下と池に面した北側は、すべてサッシにいたしました。いままではガラス障子でしたので重かったのですが、これで楽になりました。

改修後の廊下です。紅く見えるのは、べんがらで塗ったためです。

徳勝寺の庫裏は、すべて「べんがら」を塗って仕上げられておりましたので、今回も同じようにべんがらで仕上げました。

べんがらは、紅殻とも書きます。主成分は鉄の赤錆です。耐水性・耐光性などに優れており、無毒で人体

にも安全なため、昔から沖縄などで良く使われておりました。建てられた当時にはオシャレな色だったのかもしれませんが。本堂の一部にもその痕跡がありますので、すべてがべんがらで塗られていたのかもしれませんが。

歳を経ると、現在の色のようになると思われます。

